

[illegible]

第一艦隊司令長官海軍中將
正四位上藤井 較
補橫須賀鎮守府司令長官兼海軍將官會議々員

野田卯太郎氏、竹屋子衛同夫人、
縣政務總監令息吉朗氏、村井吉兵
氏同夫人二十四日朝内池より釜山
直に各京城へ向ふ(釜山特電)

廿三日迄の總數 共進會は大成功
日平均一萬七千人 井上理事長の笑顔
會開會前に於ける入場者の豫
いは五十日に於て一日一萬人
と五十萬人の入場者あるべし
參觀者にして一日七千人とし
咸鏡北道々勢一斑 井上連會館編

見たるは其進會、當局者は素より
有閑、會はたる者も亦然たる大
なり。今日に於て既に如斯成績なり
せば京城協賛會主要の事業たる三
迎の飛行大會に於ては更に多數の
觀覽者を誘致するに至る可きは諒か
り共進會は一人たりとも多くの人
を以て目的とすれば
觀望せしむるを以て目的とすれば

大成の裡に所謂有終の美を收む

外支朝	國那館	人○人○人	千三百八十人
			十四人
			二十人

● 8月の輸入監
累計一億萬斤

比すれば四十四萬九千八百四十七斤を増加せり、而して本年一月以降の

累計は内地煎熬鹽三萬二千斤、關東
州天目鹽其他二千三百十一萬六千九

萬一千五百六十兩（其た）五百十

二斤、總計一億一千百六十萬九千四百二十二斤にして前年同期間の一億三百三十三萬六千六百六十六斤に比すれば一千二十七萬八千七百五十六斤の増加を示せり

累計一億萬斤

進して遮斷獨軍の前後から蹴散らす
かしなければウィルナ退却の露軍の

て居ると思ふと▲其の裡面に於て獨
逸は米國で七億五千弗の公債を募集

對する政策が知らぬが獨逸の惡辣は

協會が遠來の記者諸君に對して臨

唯^{ただ}答^{こたへ}であつた▲處^{ところ}がいにくの雨
 滴^{しずく}に類^{なづか}ふ殘念^{ざんねん}である▲彼の羣島^{ぐんとう}の下流^{げりゅう}
 西^{にし}水庫^{すいこ}の中流^{ちゅうりゅう}から眺^{なが}めた漢城^{はんじやう}十景^{じきやう}の
 八景^{はつきやう}色^{いろ}を諸君^{しよきん}に見^みて頂^{いただき}く事^{こと}の出來な
 りのは洵^{まこと}に遺憾^{いへん}千萬^{せんまん}である

北南
語言

眞綿蚊帳

して居たので退却自慢の露軍もウイ
ルナ、モロデチノ、リダを結合した鐵
泉省内こ道入ましろど共と

ニーマン河方面の露軍一部隊が北

て居ると思ふと▲其の裡面に於て獨
逸は米國で七億五千弗の公債を募集

對する政策が知らぬが獨逸の惡辣は

唯^{ただ}答^{こたへ}であつた▲處^{ところ}がいにくの雨
 滴^{しずく}に類^{なづか}ふ殘念^{ざんねん}である▲彼の羣島^{ぐんとう}の下流^{げりゅう}
 西^{にし}水庫^{すいこ}の中流^{ちゅうりゅう}から眺^{なが}めた漢城^{はんじやう}十景^{じきやう}の
 八景^{はつきやう}色^{いろ}を諸君^{しよきん}に見^みて頂^{いただき}く事^{こと}の出來な
 りのは洵^{まこと}に遺憾^{いへん}千萬^{せんまん}である

登 錄 商 標



製 綿 夜 具 地

大 阪 市 安 土 町 三 丁 目

綿 半 印 製 綿 發 賣 元

明 山 本 佐 七 商 店

電話本局三〇八二番
振替大阪九五一五番

御大興記念
 特製
 仙臺平 御袴 地
 羽二重 御紋 附
 斜子 ヲル 御袴 地
 仙臺大町
 藤崎吳服店
 宮内省 御用達
 廣島市平田屋町 電話 二五番
 山脇喜久二
 ▲見本御申出次第無代送呈
 東京郵便口 一五五六番

[illegible]

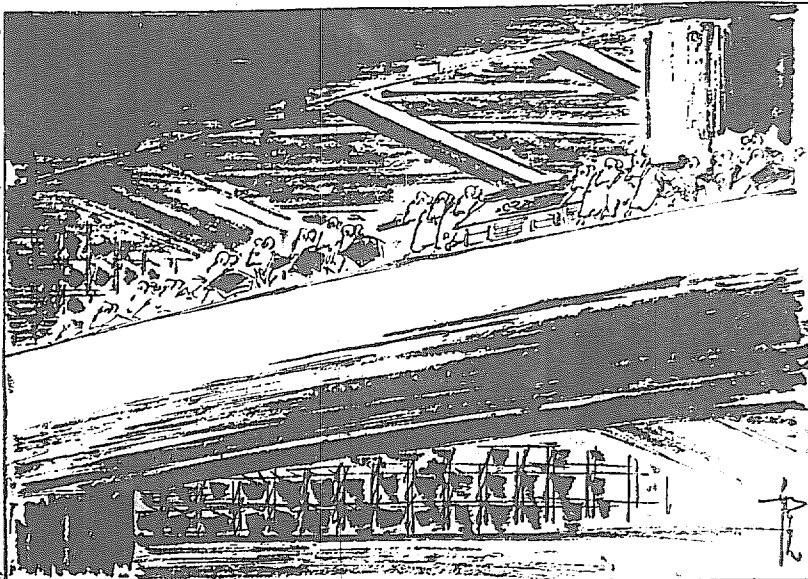
第六十三窟

上義三郎連記

毎度申上げるやうでございますが八代將軍吉宗公は徳川十五代の中の時君でございます、薩摩の藩といふ紀州大納言頼房公の御血統を引いて居られるから従つて英邁賢明の君であられる、上にこの名將なり下に大國越前守と相承る初めの一躍者には我生位様、室鳩異、澤井者に將木是國、其他有名人人物、澤山あつて後世之を尊徳の藩と申します、勿論この大國越前守といふ方は徳川家に

いつて其子が七郎兵衛忠房と申しました、其子が北膳忠貞、又其子が順七郎忠敏、其子が忠敏の子が出雲守忠光といつて是が仲々豪い人でございます、終に武州岩槻の城主と成成

一萬石の封割を受けた、又忠貞は右衛門忠實は頼房に依つて將軍家へ歸ひ、毎度五百石を領し、一人の子へ供を擧げて忠右衛門忠實と申しました、其忠實に子がございせん、依つて美濃守忠義の三男を買ひ受けて



とりますると掛ける家柄、大岡家の先祖は家康公の父君、贈一位大納言廣忠公に仕へ、始終お側を離れずに居りました大岡忠右衛門忠勝といふ人、此人は萬六百石を賜はつて殿忠公に忠誠を盡し、家康公の御代に相成り幕府に依りまして二千五百石を加増せらる。此忠勝といふ人に子息があつて忠右衛門忠政といふ、是は關ヶ原合戦の時大功を現はしました、忠政に二人の子あり、兄を忠右衛門忠興、弟を兵藏忠義と申しました、然るに兄忠興病身に於て家督相繼をいたす譯になりません、父忠政深、此事を歎き、三千五百石の内五百石を長男忠興に與へ、三千石は二男の兵藏忠義に譲り、家督を繼がせました、後に大岡家浪守忠義と養子といたしましたが忠が則ち忠興に忠相、後大岡越前守と任官しし名奉行の聞えを取つた人物、萬石の小身より殿勢に依つて修に萬石の加増を賜はりまして三州西平を領せられました、初め御書院を御先父忠興を仰せ付けられ中興勢に赴き山田奉行を勤め、八代將領の御眼識によつて江戸町奉行仰付れました、此事は前申上たる通りありました、大岡越前守江戸表に茅屋根の多いのを愛ひ、將軍に上申て茅葺屋根廣止を願出し、瓦葺土造りに改めて火災を未虞に防止しました、又消防夫を分て、いろ

ある。何で、越、能くあの子供等を
左様の越、あれは何時頃かあつたも
のてござるな。越、左様でござる。あ
れは昔しよりございましたので。越
へ、貴殿は御座多才の御方である。

皮膚科

生肌勝毒
機殖膀胱
能除器病
障碍

日丁二町治明城京
(日曜元)

佐藤醫院

(番三七一話電)


の名は「ヱ・ネツ」と申します。越前守
當は「ヱ」其も居ります。チユウ
と申します。仲間は「二名居りまして
一人はシロ助、一人はクロ助と申
ます。」越「ハ、ア是は珍らしい留
承はる何れも息災で居りますか
左様でございませう、彼等も中々
忠勤を盡し居ります。併しどうも
思慮な事をお尋ねて惣右衛門忍入
事。越「イヤ格別不思議といふ程
事でもござらんと思つた。昨日の
大分大勢で行列をいたす筈だが親
識者も澤山あると見えまするな。御
思つた。」流石のヱ後先生も不思議

●發展せる掘越商店 東京和泉橋堀越
本商店の品類は有「カ、越前美濃兩生
卓紙等の製造業を以て其効果偉大な一
般美濃者の門閥なり。日に其利用の盛
に於ける間、同種液状材料事業の一資上
有するに至れる所あり。カ、液は長くは
三箇省名物として譽れ命ぜられ、無しの光榮を受
けしに光榮を而して、唐土産物として譽れ命ぜられ、
飲物の毛髪を益害無用にして一年に一度の結核香酒
に大革新を齎する。カ、佳製液販賣は「香港酒」に
至らず最有利にて、數萬圓以上、比年下期ならさざら
に既十以上の注文あり。歐洲に化粧料にかさざら
に未所有の貨あり如くこの「佳製液」とも
五割減價より更に此の際本舖に「カ、液」は「打林
新製佳製液」記念とし、
五割減價の文藝家等に「打林時」は「英金壹圓」を以
て申せたるが、
の間に「牛乳製品」の注文申込頗る多かり

健腦丸は
逆上を引下り
て、
健腦丸は
後述を
よくし
理解力
を増す
健腦丸は
食慾を
快す
健腦丸は耳鳴
治す
健腦丸は頭痛
治す
健腦丸は
眼痛を
起す
健腦丸は
健忘を
回復す
健腦丸は
記憶力を
増す

幸福は健腦丸を
服む人に宿る!!!

(一)三十分廿分十五分四十分
(二)五分十秒五秒一分十秒
大阪北野橋丁目 丹半商會藥房
大坂市本町區助 丹半商會分店
東京日本橋區町 丹半商會支店
○贈品は全額有価証券に換ふ



主功
しゆくこう
 食傷
しよくやう
 腹冷
はらひやう
 又は
あるは
 氣候
きこう
 の急
のきゆう
 なる
なる
 目下
めげ
 下痢
げり
 病に
びやうに
 よる

一服
いつぷく
 は
は
 千金
せんしん
 の値
ち
 あり
あり

健胃固腸丸
けんいこうちやうがん

いづれなく
いづれなく
 お腹
おはら
 の工合
ぐあひ
 あらう

本舗
ほんぽ
 大阪
おさか
 谷
や
 四春堂
ししゅんどう

三
さん
 丸
まる
 樽
ずん
 庄
じやう
 幸
しやう
 甚
しん
 多
た
 事
じ
 有
あり

一
いつ
 服
ぷく
 は
は
 千
せん
 金
しん
 の
の
 値
ち
 あり
あり

い
い
 づ
づ
 れ
れ
 な
な
 く
く
 お
お
 は
は
 ら
ら
 の
の
 ぐ
ぐ
 あ
あ
 ひ
ひ
 あ
あ
 ら
ら
 う

本
ほん
 舗
ぽ
 大
だい
 阪
はん
 谷
や
 四
し
 春
しゅん
 堂
どう

三
さん
 丸
まる
 樽
ずん
 庄
じやう
 幸
しやう
 甚
しん
 多
た
 事
じ
 有
あり

一
いつ
 服
ぷく
 は
は
 千
せん
 金
しん
 の
の
 値
ち
 あり
あり

い
い
 づ
づ
 れ
れ
 な
な
 く
く
 お
お
 は
は
 ら
ら
 の
の
 ぐ
ぐ
 あ
あ
 ひ
ひ
 あ
あ
 ら
ら
 う

本
ほん
 舗
ぽ
 大
だい
 阪
はん
 谷
や
 四
し
 春
しゅん
 堂
どう

三
さん
 丸
まる
 樽
ずん
 庄
じやう
 幸
しやう
 甚
しん
 多
た
 事
じ
 有
あり

一
いつ
 服
ぷく
 は
は
 千
せん
 金
しん
 の
の
 値
ち
 あり
あり

い
い
 づ
づ
 れ
れ
 な
な
 く
く
 お
お
 は
は
 ら
ら
 の
の
 ぐ
ぐ
 あ
あ
 ひ
ひ
 あ
あ
 ら
ら
 う

本
ほん
 舗
ぽ
 大
だい
 阪
はん
 谷
や
 四
し
 春
しゅん
 堂
どう

三
さん
 丸
まる
 樽
ずん
 庄
じやう
 幸
しやう
 甚
しん
 多
た
 事
じ
 有
あり

一
いつ
 服
ぷく
 は
は
 千
せん
 金
しん
 の
の
 値
ち
 あり
あり

い
い
 づ
づ
 れ
れ
 な
な
 く
く
 お
お
 は
は
 ら
ら
 の
の
 ぐ
ぐ
 あ
あ
 ひ
ひ
 あ
あ
 ら
ら
 う

本
ほん
 舗
ぽ
 大
だい
 阪
はん
 谷
や
 四
し
 春
しゅん
 堂
どう

三
さん
 丸
まる
 樽
ずん
 庄
じやう
 幸
しやう
 甚
しん
 多
た
 事
じ
 有
あり

一
いつ
 服
ぷく
 は
は
 千
せん
 金
しん
 の
の
 値
ち
 あり
あり

い
い
 づ
づ
 れ
れ
 な
な
 く
く
 お
お
 は
は
 ら
ら
 の
の
 ぐ
ぐ
 あ
あ
 ひ
ひ
 あ
あ
 ら
ら
 う

當銀行、預金、貸附、爲替等一般銀行業務
ヲ確實親切ニ取扱申候

京 族

朝鮮銀行

振替、金口生、東京三三三號
電話、一六三六、一三六〇、一三六二

支店出張所
鎮南浦、新義州、安東、奉天、大連、長春、
旅順、天津、龍口、光州、大邱、釜山、馬山、羅南、會寧、

右ノ外内外主要ノ地ニ爲替取引先有之候

生れつき色が白

やうな白さに附く

高貴御料 美顔白粉

その譯は!!

一從來の白粉より遙に色が白いです。こんな白粉とても比へて見れば分りますが、同じ白粉と言つても、美顔白粉は色の白い白粉ではありません。

二極めて美しい光澤があるからです。既にほんごうの白がある處へ、此の美しい光澤が加はるのですから、美顔白粉のお化粧の色艶は、態々らしい色艶でなく、眞に迫つた色艶が出るのです。

三被覆力が特に強いからです。被覆力が弱いと白粉のノリやノビも悪く、殊に白粉の色艶を充分に現しません。被覆力の強い美顔白粉は、其眞に迫つた色艶の美しさを其儘お化粧顔に現させます。

四分子が極めて細いからです。白粉の分子は程々程々が無く附くものですが、美顔白粉の原料には確に足以上無いといふ分子の細い原料が使つてあります。

斯ういふ次第で、美顔白粉は高貴の方々始め、上中流家庭にせよ無くてならぬ化粧料と言はれて居りますのです。

京城日報

此度の歐洲戰爭にて交戦者の最も危む所は武器軍需品の供給にして、之に次ぐの疑問題に兵員の補充なりと稱す。然れども此二者は、名目上總て立せる問題のことなれども、其實は互に相關聯せる事情にて、武器軍需品の供給の困難なるは則ち兵員補充の困難なる所以なり。

兵給以輕便の型置なる爲め、各方面に健闘するを得るがごとく、各地方に彼の兵を補充力は今や將に盡きむことの實あり、其兵員の疲弊を補充するの能力なきものは到底其戰闘を長く持續すべからず。獨逸人の半利を急ぐの理由亦蓋し此に存せり。

而して戰爭は兵士のみにて行はるるものなり。官給の兵士は其の移出額は約七百萬圓にして之に實

其種族亦極めて多様なるを見て、其は出陣品に就きて一々説明するの煩を選び、水産に關する現物を數説して後、兵士に主要出品物に對し一二の品類を試

大正三年中に於ける水産製造物の輸出額は約七百萬圓にして之に實

部は常に點數の夥しき部已なら
種類亦極めて多様なるを以て故

正三年中に於ける水産製造物の輸出額は約七百萬圓にして之れに對し、主要出品物は蟹し一二の品類を試み、産に關する現象を熟識して後、其の選り

(刊休日翌日祝祭大)

[illegible]

出口概觀
(上)

第一號館(水産)

▲水産界の精華也

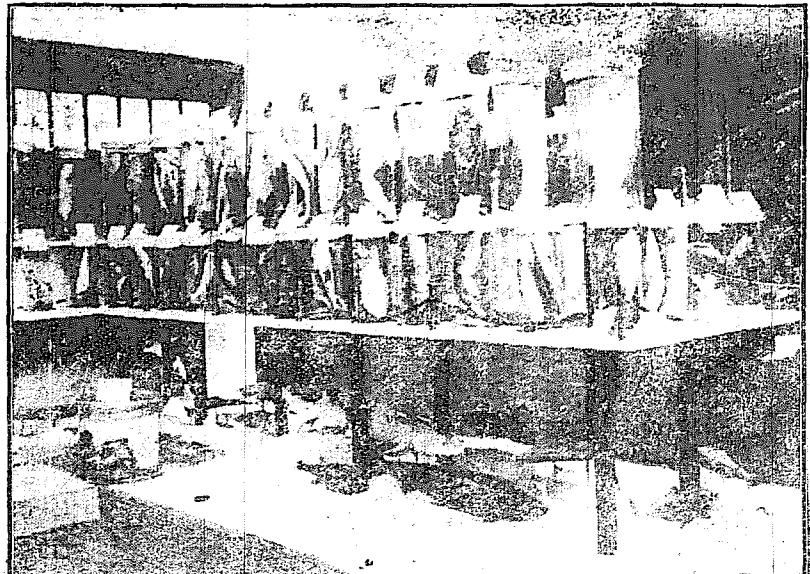
第五部水産は第三部礦業に隣りて

五部水産は第三部鑛業に降りて
部工業と接し二百八坪の地積を

して一千六百三十點を陳列す、之を類別せば乾製及び燻製品七百一點、海藻及び其製品二百六十點、鹽百五點、加工品及び工藝材料

漁夫漁船の邊に

亦著しき増進を現はせり、即ち併



大谷光瑞

長公曰く只恐夜深花睡去故燒高燭
紅妝是春の燈火なり艶々淡月ので
を焼いて夜遊をなし微風時に清
送る此時燈火なくんば花に非ざ
人又睡らざるもの稀なり春夜の

七情登火なくんば二非を
焼いて夜遊をなし微風時に清涼

人父睡らざるもの種なり春夜の
は淡月明燈と相須つて花影を照
あり大夏夜に至ては晩來雨一
陰猶滴あり時に水檻に坐して
納る時に風なきも涼味掬すべし

〔下〕鯨とその製造品

避暑漫筆

同
入
間
香
明
頭
や
山
の
畫
鶏
閑
に

[illegible]

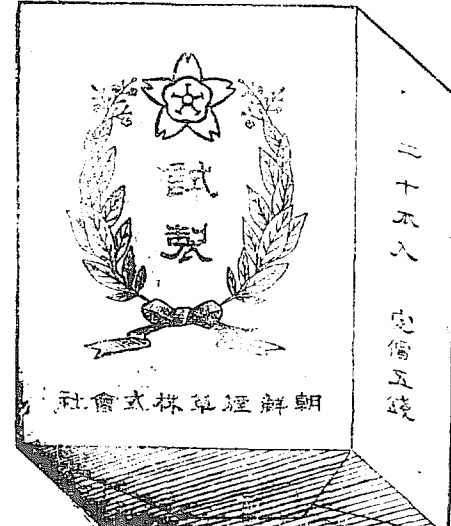
電話一八七番



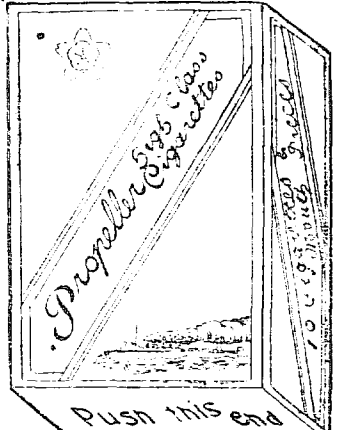
グアイオレツトは好評
噴々たるホワイトコス
モスの上級品にして原
料優越嗅味良好價格極
て低廉なり

金參錢

兩切二十本入



試製は日付
上綴にして
原料精選香
味兩全一喫
神氣爽然た
り………
二十本入
金五錢



プロペラは高尚優美な
スワック入りにして煙
量豊富噴味佳良にして
舶來品を凌駕す……

新製品賣出

瓢の旗風

(562)

番柴渡人
而升年
自
醫

賤が獄前記
(四)

美濃危急の情報は、續々として、北の庄へ、速かに用兵の津池、櫛の館を引く様に到着する。

一、二、三、先には津守に遊覧がり、鼓息の手合せ、思はずも越張のして見す。三法師君、まつた、御舍弟の若君達、彼の箕曲奴に奪はれ、家後同様の狼奴に、和議を乞はせしこと、三七歳御人の御廬屋語りてはなし、全け家の恥ぢやうと文藝、早う、雪隠職の要意を、出陣の同文書なく、

秀吉は、獨り北夷突つ、天正十一年の元旦は、遂に橋州輦路に行つて、五日迄逗留して、三法師君を慰め、十六日安土に歸ると、月の二十日迄に、夫々の大名に宛て、汀州草津送りへ、出向くべき回文。

去年は御古里々から、備中攻め、其の中頃から、山崎の品合戦、而して是の攻めと、休息の間と云ふものもなく、今年はやつこと、思ふ矢



「知らいて……」山添九郎大丈は、一
益の酌へ、隔章し、膝押し進めた。
「何が大事故さな、まつた、三七煙
がよ……」益は低く息を吐く。
「流石は右衛門長が、片断……」
老翁は、
「さんてもない、貧弱で、最……」
早や千波多様は、片々煙を鼻から吐
は安樂越から、霧原に落ち込んでゐ
るこの事」
「エ、狼奴に、先を越されをうた
……」

●夜窓の露

かりたての青き頭を撫で居れば、
心いつしかおどろくことになる

あくせくと昨日今日も人間の飽
くはパンの粉めなるがごし

何か、こうよこごして金を得
る、法はなきかと考へて見る。

新柄 流行
緋七 丸

壹反々ツ々
壹圓五拾錢

一屋園各商店にては今回割合新商品最
 見とらしては舶来本十圓以上
 の品を負けね給へとの投資を始めぬ
 たが而も勿論一反タタ子一圓五十
 錢別一反タタ子二圓五十錢と云
 ふ九て只の様々法外に廉價に投出
 且つ賣出に記念として實用と優良
 を兼ねたる衣類を賣出をせんとす
 を兼ねたる衣類を賣出をせんとす
 一反の注文毎に一箇尺の無代通
 づけた大英紙は流行に川流の廣き
 行せし地を見るに因り地方は男
 大流行を見る所以也
 別年節を記し申込は割合親に選

世界的の髪油

パールを


ひげは

にもよい

ドナタ

「さらぬ」

店理代西關
阪店支平贊尾



本液ムウデラ
商也銃尾平京


「毛があつまつて
美しい髪
房々した
美しい
髪」
「なる」

煉香油

一筋
づゝの
しなやかて

商標

製品紹介



角二ゴム合資會社

弊社製品は始政五年記念朝鮮物産共
進會參考館内に出版あり冀くは御
觀覽の榮を賜はらんことを
以て即賣す冀くは會期中賣店に於て特價を
仰付けられんことを

東京出張所

電話長京橋三一三〇番

本社

大阪府西成郡浦江
電話土佐堀一長八八〇番
發電略號(力又ハカ)五五〇番
振附大阪銀座二丁目

登錄
營業
自働車
自轉車
人力車
タイヤ
ゴム製品

其他
各種
重車


發賣元

○丸見屋商店

(19)

其品質の優良なる點に於て其價格の低廉なる點に於て遙かに海外品を凌駕する所あり而かも克く國產獎勵の主旨に適する製品を汎く江湖に供給し得るは弊社の私に誇る所の也


江原丸 九月 日 仁川發
高麗前大連支店發行
 麗水丸 九月三十日 仁川發
各道總店本通發行
 全州丸 每日午前 仁川發
 南陽丸 每日午前 仁川發
江原丸 仁川發 仁川發




甘藷丸、龍田丸、浦田丸、名護寄、濱田丸、長生丸、魚沼丸、三浦丸、九月、海州丸、五、濟丸、九月、純、慶、九月、日、釜山發、各、龍田丸、水、龍田丸、釜山行に接、順天丸、三日、日、每、木浦發、各、龍田丸、水、龍田丸、釜山行に接、順天丸、三日、日、每、木浦發、慶興丸、九月、廿五日、木浦發、公州丸、九月、廿七日、木浦發、(前、釜山列島、長生丸、三浦丸)、九月、廿九日、仁川發、

園、世間の信用は今悉く御園白粉に集つて居ります、之れと申しますのも畢竟御園白粉の品質が優良完全にして、のりも良くのびも良く濃くも濃くも御自由に御化粧が出来から御座りませう


成鏡丸 九月廿九日
 昌平丸 九月三十日
 鏡城丸 九月廿六日
 元山丸 九月廿七日
 忠清丸 九月廿七日
 永興丸 九月廿五日
 白粉丸 九月廿五日




通



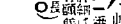
宣



宣



宣



宣

宣

宣

宣

宣

宣

宣

宣

宣

宣

宣

宣

宣

宣

宣

宣

宣

宣

宣

宣

宣

宣

宣

宣

宣

宣

宣

宣

宣

製造本舖
伊東胡蝶園
合
ばい毒
龍山下ラック商會支店
日本郵船川出帆

英同丸 九月廿九日午後七時入港
大船到青口定期船往檳榔嶼及汕頭等處
如欲搭客或運貨者請向本行接洽可也此佈

城津清洋行 謹啟

限鶴丸 九月 日 午後九時出港

(元山出帆)

西洲津泊岸各港を經て雄飛行

第三英同丸 九月廿九日午前八時出帆

阿波國共同汽船株式會社

本司丁馬場(門番式) 回漕部
三川電氣店 四丁目 回漕部
豐川電氣店 四丁目 回漕部
原太電氣店 六丁目 回漕部
新築電氣店 二丁目 回漕部

△大連出帆	△三軒丸	△元山 清津・浦潮行(釜山出帆)	宮島丸 西郷津	△宮島丸 西郷津	△成津丸 九	△上海丸 陸打	△安高丸 九	御加	意
十月三日 正午出帆	十月五日 正午出帆	十月七日 正午出帆	十月七日 正午出帆	十月七日 正午出帆	十月七日 正午出帆	十月十一日 午後出帆	十月十一日 午後出帆	十月十一日 午後出帆	十月十一日 午後出帆
△大連出帆	△三軒丸	△元山 清津・浦潮行(釜山出帆)	宮島丸 西郷津	△宮島丸 西郷津	△成津丸 九	△上海丸 陸打	△安高丸 九	御加	意
十月三日 正午出帆	十月五日 正午出帆	十月七日 正午出帆	十月七日 正午出帆	十月七日 正午出帆	十月七日 正午出帆	十月十一日 午後出帆	十月十一日 午後出帆	十月十一日 午後出帆	十月十一日 午後出帆

[illegible]

第三運半九 九月 日發六時出帆
○佐須 原座 壹貳 肆多行
大 眞 九 每 三 日 一 日 壹 日 午 後 十 時
廿 一 日 廿 六 日 出 帆
本 町 吉 立 五 町 大 池 回 滿 都
本 町 吉 立 五 町 大 池 回 滿 都

大阪商船出帆

○中國四國沿港各港行 一 船 本 日 出 帆 諸 切 符
船 廿 六 日 出 帆

[illegible][illegible]